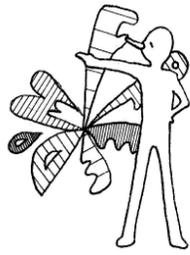


Freedom



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第3号

2010年 3月11日発行

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

毎月11日は「人権を確かめよう日」

高校生がつくる人権広報誌 “Freedom” スタッフ募集中！



ろう学校演劇部の舞台発表を見てきました

第2号でろう学校演劇部の活動を紹介してくれた、高田商業高校のスタッフが、今回は奈良県の高校演劇の発表会取材。舞台を見た感想を寄せてくれました。

ろう学校演劇部の

「keep living

未来へ」を鑑賞して

十月四日、三宅町文化ホールで第三十四回奈良県高等学校演劇発表会A地区大会が行われました。この大会で、以前に演劇部の練習風景などを取材させていただいた、奈良県立ろう学校の皆さんの演劇「keep living 未来へ」が上演されました。このお話は、主人公の少女がいじめを受け、追い詰められて逃げ惑った末に、少女の意識が死と生の狭間の異次元へと入り込んでしまふ衝撃的な始まり方をします。死と生の狭間で、主人公は、亡くなった父親が転生する途中の状態、彼に再会します。そこから彼らの過去の話が笑いあり、涙ありで語られていき、主人公の状態がだんだんと分かかっていきます。父親から生きる勇氣をもらった主人公は、父親との別れの後、元いた場所に意識が戻り、前向きに生きていこうとする姿で劇は終わります。この劇では、生きるということの意味や親子のつながりを考えさせられる



とともに、完成度の高さに驚かされました。

そして、前回の

取材で一つの課題だとおっしゃっていた字幕パネルのタイミングがよく合っていて、大成



功をおさめました。さらに、音楽や動物の鳴き声なども入り、よりリアルな感覚で作品に入り込むことができました。表現力豊かな役者さんの表情や動きを見ているだけで、痛いほど、感情が伝わってきて、劇の終盤では会場からすすり泣きの声が聞きました。この感動は演劇部の方々の日々の練習と、たくさんの方々のアイディア無くしては、与えることはできないものだと、改めて感じました。

今回の大会で、奈良県立ろう学校の演劇部の皆さんは見事県大会出場手に選ばれました。主人公の役を演じた太田明里さんは、次の大会に向けてさらに磨きをかけてレベルアップしていきたいと語ってくれました。ぜひ、機会があれば皆さんも奈良県立ろう学校の皆さんの力強い演劇を見ていただきたいと思います。

(高田商業高校 S・O)

高解研 研修交流会

参加体験記

一月三十一日(日)に橿原市の婦人・青少年会館で今年二回目の高解研研修交流会がありました。今回は約二十名の参加があり、私は前回のような緊張感はなく、余裕をもって研修をすることができました。

午前中の研修会では現在、大学生で、高解研のOGでもある森田雪さんが在日外国人としての体験や思いを話していただきました。森田さんは中国残留孤児の孫として八歳の時に家族とともに来日し、日本での生活で戸惑ったこと、学校では慣れない日本語や日本人の考え方に大変苦労したことを話していただきました。また、就職を控えて、自分のアイデンティティーを真剣に考えるようになったことなどの悩みも打ち明けてくれました。

昼食はいつもと同じように、調理実習という形でしました。四つの班に分かれて、水餃子と焼きそばを作るのを森田さんにも手伝っていただき、みんなでワイワイ言いながら楽しく食べることができ



ました。

午後は各校

解放研等の活

動や意見交流

会と、今年一

年間の成果や反省等を報告しました。

また、そのあと第四回フリーダム編集会議があり、各校分担任してあった原稿の調整・確認を行いました。

私は、この一年間、高解研の活動に参加して色々な人と出会い、色々なことを知ることができ、自分の視野も少し広がり、精神的にも成長したと思っています。特に、鶴橋コリアンタウンの研修に出かけたことは楽しく、一番心の中に残っています。

四月当初はどうなるのか心配でしたが、今ではこの部活動に参加してよかったと思っています。高解研は先生方が進めてくださいますが、自分たちが主役で、考えたり、報告しなければならぬので、研修会が終わると疲れますが、「充実感のある活動をしたな」という気分になれます。

四月からは、三年生で、就職の準備などで忙しくなりそうですが、この研修会には参加したいと思っています。みなさんも、ぜひ、この研修会に参加してください。

(大宇陀高校スタッフ)

※「高解研」は奈良県高等学校解放研等連絡会議の略称です。

なお、文中の大宇陀高校ヒューライツクラブが実施した、鶴橋コリアンタウン研修会については、次号で紹介していただきます。お楽しみに！



『国境なき医師団』を知っていますか？

山辺高校スタッフがNGOの活動を紹介します

みなさんは、「国境なき医師団」とはいったいどんな活動をしている団体かを知っていますか？「言葉だけは聞いたことがある」や「全く知らない」といった人もいるのではないのでしょうか。前号で私たち山辺高校はユニセフについての記事を書かせていただきましたが、今号でもそれに関連して、「国境なき医師団」についての記事を書いてみたいと思います。

まず、「国境なき医師団」とはなんなのでしょう。それは、1971年にフランスの医師達が集まって生まれた非政府組織（NGO）のことであり、独立・中立・公平をつらぬいています。簡単にいうと、「本当に助けを必要とする人であれば、誰でも差別せず援助する団体」ということになります。

では、どんなところで活動しているのでしょうか。それは紛争が起こっているところや、自然災害の発生したところ、医療に手の届かない人々のいるところなどです。そうしたところにいる人たちは単に“物資が不足している”や“治療の手が追いつかない”といった問題だけでなく、“心に大きな傷を負っている”といったこともあります。

「国境なき医師団」は、このような状況下におかれている人たちのために、診療・外科手術・栄養治療・予防接種・心理ケアなど幅広く活動しています。このうちの心理ケアというのは、目の前で家族を失うなど辛い体験をした子どもは精神的ショックのために小さな物音におびえたり、眠れなくなるなど、心と体の健康を崩すことがあるから行っています。こういった活動のおかげで助かった人はたくさんいます。

みなさんにも、できることはたくさんあります。少しずつ始めてみませんか。（S・O）

●「私たちが「国境なき医師団」と一緒にできること」クイズ●

～募金でどこまで人を救えるのでしょうか？～

- 100円で…栄養失調の子どもに与える栄養治療食（プランピー・ナッツ）を、何個買うことができますか？
 < A : 1個 B : 2個 C : 3個 >
 *プランピー・ナッツは1パックで500キロカロリーあります。
- 1000円で…髄膜炎、はしか、ポリオの予防接種を、何人に行うことができますか？
 < A : 3人分 B : 6人分 C : 10人分 >
- 1500円で…風邪やマラリアなど病気の患者さん何人を、1ヶ月治療することができるのでしょうか？
 < A : 30人分 B : 60人分 C : 70人分 >
- 3000円で…何人の子どもにはしかの予防接種ができますか？
 < A : 60人分 B : 80人分 C : 170人分 >
 *世界では、はしかで年間2万人の幼い命が失われています。
- 5000円で…何人のマラリア感染の検査が行えるのでしょうか？
 < A : 50人分 B : 100人分 C : 150人分 >
 *マラリアは毎年100万人以上が死に至る病です。

○国境なき医師団（MSF）の活動は、世界中の人々からの寄付で支えられています。わずかな金額でも、人の命を救うことができます。募金をしてみようと思う人、もっと調べてみたいと思う人は、国境なき医師団日本のウェブサイト（www.msf.or.jp）をご覧ください。（S・K）

※クイズの答え 1=C (3個) 2=C (10人分) 3=B (60人分) 4=C (170人) 5=B (100人)

◇コラム◇
 国境なき医師団
 S・O

私は、最近疑問に思うことがあります。それは、どうして生まれた国や地域によって貧富の差が生まれてしまうのか、ということだと思います。例えば、今の日本のような国に生まれても、戦争に巻き込まれることにはないのに、外国では幼い子ども、それも私たちよりも小さい子どもたちが銃を持って戦いに行かなくてはならないような所もあります。どうしてこんなにも違うのでしょうか。いつからこうなってしまったのでしょうか。この現象にも何か原因があるはずで、その貧富の差を減らしていくためには、なくしていくために、私たちにできることは何なのでしょうか。



西光万吉と西の思想

～添上高校スタッフ発～

みなさんは西光万吉という人物を知っていますか。西光万吉は、大正・昭和期の部落解放・社会運動家で、全国水平社設立の中心人物、そして水平社旗の意匠の考案者および水平社宣言の起草者として知られています。

西光万吉は水平社発祥の地である御所市柏原の西光寺に生まれ、被差別部落出身ということで様々な差別を受けました。青年時代には、学校の教師や級友などからの出自に対する差別を受け、その行為から逃れるため、何回も転入学を繰り返していたと言われています。また、幼少期から絵の才能に恵まれ、離郷し画家になるうとするも、部落民への差別の恐怖から、その夢を一時断念するという、出自をめぐる悩みを体験しています。

けれど、西光万吉はこうした自身の差別体験から、自分の抱いていた逃避意識が間違いだ気付き、この頃から解放運動へ力を入れていきました。同郷で親友であった阪本清一郎、駒井喜作らとともに青年運動・社会改造運動に没入していき、様々な思想に触発され全国水平社創設へとつながったのです。

ところで、西光万吉と言えは部落解放運動における水平社宣言が有名ですが、締めの一文である「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の人間という言葉は、「じんかん」とも読め

ると知っていますか？普通に読めば「じんげん」ですが、西光万吉は「じんかん」つまり、人と人との間という意味も同時に込めて、この文を作ったそうです。幼いころから幾多の差別を受け、様々のつらく苦しい思い、それこそ辛酸をなめるような体験をしてきた西光万吉であったからこそ、世の中に熱が溢れ、人間は勿論のこと、人と人との間に光という名の希望が満ち溢れていくことを願ったのかもしれない。



西光の墓と「人の世に熱あれ…」の石碑

高校生の人権広報誌
 “Freedom” 第3号 (2010年3月11日発行)
 編集 “Freedom” 編集スタッフ
 発行 奈良県高等学校人権教育研究会
 〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1
 奈良県解放センター内
 TEL 0742 (62) 5555 FAX 0742 (62) 5568
 E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

※今回の“Freedom” 題字は大宇陀高校スタッフ、“イヌサフラン”の図案は高田商業高校の吉井さん・福田さんでした。
 ※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。
 ※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託を受けています。

☆次号予告☆ みなさんは、将来の夢はありますか？ 帝塚山高校スタッフが、仕事のやりがいや自己実現について、職業人にインタビューしてきました。お楽しみに！